

柳營日記記

延寶五丁巳年

七月

朔日

例月之通御礼在之

(時服二) 酒井左衛門尉

(御馬) 小笠原備後守

(羽折) 右在所へ御暇被下之

一 本国寺二束二巻を捧繼目之御礼申上之

一 宮城主殿櫻井宗恩宇治より帰詔

一 算知算哲知哲參上進物前^一置 御目見

一 土御門極蔭使者御暇銀五枚被下之

二日

無記事

三日

右 御前被為 召之御奏者番被 仰付候 秋元撰津守

大久保平兵衛尉 永井佐渡守^一 大御番 由比長兵衛

右父如役儀御藏書替役被 仰付之席御右筆部屋縁類

一 紀伊中納言殿去頃東廣被遣之付^一為御礼被差越候使者堀田孫之丞御暇^一付時^一ふく

三被下之

一 毛利甲斐守在着付^一為御礼以使者二種^一荷進上之

四日

右願之通隠居被 仰付候 阿部播磨守

高九万石之内 阿部美作守

八万石 同 七三郎

五千石 同 長吉

三千石 同 鶴之助

式千石 右之通分^一被下之席西湖之間雅楽頭傳之

一 今日式日寄合久世大和守出座也

一 毛利甲斐守使者御暇時服二被下之

五日

右御下着^一付被遣之 日光御門跡

上使久世大和守 欠

右城下嶋原去^一五日十八日卯刻^一出火辰刻迄町屋百十軒

余焼失候処又六月十七日夜子刻三丸^一出火候処火之中^一

注進候故三丸玄關迄火移候を見注進候故如何注進焼失不

相知申候由也

當中別条無之

六日

如例年御一門方^一以使者為七夕御祝儀差上之

一 荷 上使福美美濃守 日光御門跡

二種 右今朝被遣之

土岐十左衛門

右若州^一飯參登 城於 御座之間 御目見

一 茶屋新四郎龜屋庄兵衛上柳彦十郎御暇銀十枚充被下之

七日

辰下刻御黒書院 出御 館林殿

御廻 酒井左衛門 甲府殿

右御礼終^一御白書院 渡御 尾張殿

紀伊中將殿

水戸少將殿

松平讃岐守

井伊玄蕃頭

松平左兵衛督

右御礼畢^一大廣間 出御之刻大廊下^一高家衆詰衆御番頭

諸物頭並居一同御礼則大廣間^一出御中段^一御出座御譜

代大名諸大名衆御礼終^一智足院御礼間之御襖障子開之次

之間^一三千石以上之面々無官之高家其外法印法眼医師諸

役人諸奉行並居一同御礼畢^一入御也

孟蘭盆^一付^一日光山^一御名代阿部忠左衛門可被遣旨被

仰渡之

八日

右御前^一被為 召五千石御加増都合二万石被成大坂御定

番安部丹波守跡役被 仰付候則名^一彈正忠改可申由也

来月五日 高藏院様御一周忌^一付於上野御法事被 仰付

候彼地^一之奉行人被 仰付候 小笠原山城守

保科越前守

右御前^一被為 召五千石御加増都合二万石被成大坂御定

番安部丹波守跡役被 仰付候則名^一彈正忠改可申由也

来月五日 高藏院様御一周忌^一付於上野御法事被 仰付

候彼地^一之奉行人被 仰付候 小笠原山城守

戸田備後守

太田撰津守

岡部角左衛門

日光御門跡^一

一 甲府殿館林殿^江以上使酒并志岐守御鷹之雲雀五十充被遣之

一 尾張中納言殿^江以上使備後守同斷被遣之

一 阿倍忠右衛門孟蘭盆^二付日光へ被遣^二付 御目見

十日

一 以上使御鷹之雲雀五十充被遣之

土使米津周防守 甲府中將殿

桶栗石見守 紀伊中將殿

池田帶刀 水戸少將殿

一 千代姫君御方へ御鷹之雲雀被遣之

十一日

高野山大徳院

右修復被 仰付処出来^二付 御褒美被下候面々時服二羽

織充

時服二ツ 植村右衛門佐家來

浅草御藏衆被 仰付

水口忠兵衛 美濃部次左衛門

美濃部五右衛門

右席御右筆部屋縁類

當今様御母右新中納言殿去^ル 五日薨去^ニ付為 上使大

沢右京大夫京極へ可被遣候旨同氏兵部大輔へ被 仰渡之

京都より次飛脚到來新中納^{キコノ}との薨去之由戸田越前守より注進之

廣橋大納言 織田伊豆守^江

右今朝婚姻在之

一 小堀和泉守事紅葉山 御佛殿火之番被仰付之旨以奉書達之

一 紀伊中納言殿使者中川清二郎御暇時服三羽折被下之

一 女院様より七夕御祝儀之御使小林与左衛門御暇^三付御返事之御書出相渡且白銀

五枚被下之

一 知久伊左衛門事御預り所差上度之旨連々願^ニ付可任其意旨被仰出之

御鷹之雲雀三十充以御使番被下之

松平越後守 松平加賀守 松平相模守

一 御腰物方細工人木屋常与小嶋甚吉御暇銀十枚時服二充被下之

十二日

御旗本諸士跡目被 仰付候

御留守居衆 長門守三千石

八千石内

七千石

五千石

千石

御書院番荒川出羽守組頭 大御番頭白番守子

御小姓組内藤上野介組 武田越前守組頭次郎兵衛守子

御小姓組酒井老松守組 大久保山城守組元大御番組頭平兵衛守子

御書院番町野老松守組 大久保山城守組元大御番組頭左衛門守子

瀧川若狭守 一

本多豊前守 二

本多三左衛門 三

新庄大学 四

青木右衛門 五

普沼七之助 六

佐々喜三郎 七

吉十郎 八

鈴木權之助 九

次左衛門 十

宅間伊佐衛門 十一

同 武大夫 十二

水上六郎兵衛 十三

筒井内記 十四

森川六之助 十五

同 三郎左衛門 十六

渡辺忠四郎 十七

千本大之助 十八

仁賀保權太郎 十九

大久保半十郎 二十

芝山小左衛門 二十一

野々山又兵衛 二十二

最上小四郎 二十三

久保虎之助 二十四

岡部二郎右衛門 二十五

曾根孫左衛門 二十六

富田大学 二十七

鈴木源太郎 二十八

牛奥新八郎 二十九

長田平三郎 三十

長谷川彦八郎 三十一

三田武太郎 三十二

三田武太郎 三十三

三田武太郎 三十四

三田武太郎 三十五

御腰物奉行六郎右衛門子 板倉市正組元大御番

戸田五郎左衛門 廿七

石津新五左衛門 三十五

神谷源三郎 三十六

拓植左門 三十八

廣戸勘右衛門 廿九

玉虫甚之助 三十

水野新右衛門 三十一

太田傳七郎 三十二

夏目吉之助 三十三

天野源藏 三十七

鈴木權右衛門 四十

浅原次郎左衛門 三十八

木村次郎助 三十九

鳴村仙庵 四十一

齋藤長八郎 四十二

戸口甚大夫 四十三

堺野八郎右衛門 四十五

青木平助 四十四

水谷文左衛門 四十六

石原甚九助 四十七

河合理右衛門 四十八

武野甚五兵衛 四十九

鈴木宗順 五十

原 兵助 五十一

坂田安右衛門 五十二

市場次郎四郎 四十九

吉本九助 五十

斧田又兵衛 四十八

内田七郎右衛門 五十

戸村新之丞 五十一

藤田七之介 五十二

藤田七之介 五十二

藤田七之介 五十二

藤田七之介 五十二

藤田七之介 五十二

都合六拾三人

右老中列座 被 仰渡之

今日式日寄合稲葉美濃守出座也

黄金三擔

御腰物

甲府館林

両宰相殿

右生見玉之為御祝儀被差上之

初鞋老尺

右被差上之

御鷹之雲雀三十ッ御使番を以被下之

松平左京大夫 大膳大夫 藤堂和泉守 松平讃岐守 井伊玄蕃頭

於 御座之間御帷子三ッ被下之

美濃守

大和守

但馬守

但馬守

十三日

大沢右京大夫

右於 御座之間 御目見

奥方御普請出来 付 御褒美被下之

(時服三)

(羽折)

(同二)

(羽折)

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

松平陸奥守

同三

同二

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

凌雲院

信解院

勸理院

東漸院

寒松院

常德院

常徳院

十八日

家督初御暇被下御礼

(金三十枚)

阿部美作守

右家督之御礼太刀目録献上之

金三枚 阿部七三郎 同二枚 同長吉 同一枚 同鶴之助

右三人分知之御礼太刀目録献上之

大友万之助

土屋主計

水野数馬

小出新十郎

松平巳之助

十九日

御鷹之雲雀三十充以上使御使番被下之

松平出羽守 上秋彈正大弼 松平大和守 松平刑部大輔 松平播磨守

松平薩摩守 有馬中務大輔 松平中務大輔 松平飛騨守 松平信濃守

松平新太郎 森 内記

一紀伊中納言殿御簾中へ御鷹之雲雀被遣之
一館林宰相殿尾張中將殿御簾中へ鷹之雲雀被遣之

廿日

辰后刻紅葉山 御參詣即刻 還御也

安倍忠右衛門

右登 城於 御座之間御目見

水野右衛門大夫

来月於 上野

高岸院様御法事中御門番被 仰付之

稲葉丹後守

右幼少之息病氣以之外登 城無之

一御供土井能登守松平因幡守内藤若狭守其外如例

一御刀 酒井老岐守 御先立 酒井河内守 御履 瀧川相模守

一尾張中納言殿水戸少將殿与参日門奉迎

一雅楽頭大和守但馬守与参

一還御後兩典被參詣

一今日御參詣濟^二付^三御一門方より如何使者差上らる

一安倍忠右衛門從日光山掃謁

一水野右衛門大夫事從来月於東叡山御法事中御門番被仰付之

廿一日

縁組被 仰付

酒井雅楽頭娘

松平九十郎^江

松平丹後守娘

伊東出雲守^江

織田山城守娘

土方奎之助^江

松平伊豫守娘

本多平八郎^江

立花飛騨守娘

相良老岐守^江

内田出羽守娘

毛利安房守^江

小笠原土佐守娘
秋山吉兵衛^江

牛込忠左衛門娘

仙石吉十郎^江

鳥居久大夫娘

同 小治郎^江

右席御白書院縁類老中列座雅楽頭申渡之

阿部美作守

右向後阿部對馬守並詰衆可相詰被

仰渡之

右令乱心致自害依之父夢休儀牢浪仕候由被聞召被加

御不便御切米式百俵新規被下之旨千本兵左衛門^江被 仰

渡之

稻葉美濃守

右孫之忌同姓丹後守息昨夜死去也

廿二日

評定所寄合久世大和守出座也

一御鷹之雲雀三十充以上使御使番被下之

一 小笠原遠江守 丹羽若狭守 松平和泉守 本多下野守

一 松平越中守 松平隱岐守 戸田左門 水野美作守

一 真田伊豆守 本多兵部少輔 岡部内膳正 本多越前守

一 松平新太郎内室松平紀伊守内室^江も是又雲雀被下之

廿三日

右被為 召中與衆被 仰付之席山吹之間

右忌 御免登 城也

稻葉美濃守

一御鷹之雲雀二十充被下之

一 内藤紀伊守 西尾隱岐守 鳥居左京亮 諏訪因幡守

一 松平對馬守 土岐山城守 松平佐渡守 松平伊賀守

一 松平伊豫守掃国御礼以使者晒布廿疋二種一荷差上之

一 御用之儀有之^而為 御使尾張中納言殿^江久世大和守甲府館林兩宰相殿^江土屋

但馬守被遣之

一京都より次飛脚到来圓満院御門跡薨去之由注進之

廿四日

辰后刻紅葉山 御參詣即刻 還御

新院御子^{三才} 円満院宮

右去十八日 薨御之由

一御供土井能登守石川美作守内藤若狭守其外如例

一御先立 酒井河内守 御刀 内藤上野介 御香 堀山城守

一尾張中納言殿水戸少將殿豫參 増上寺詮雄拜迎

一酒井雅楽頭久世大和守土屋但馬守豫參

一還御後御兩典參詣

一御一門方より如何使者差上らる

廿五日

右 御前^江被為 召御老中被 仰付之則養父加賀守名

可改旨上意也

大久保出羽守

右遠慮御免如前々可相勤之旨昨夜被 仰遣今日登 城也

堀田備中守

廿六日

一於御座間御鷹之雲雀拜願之

一 三十酒井雅楽頭 廿宛 稲葉美濃守 久世大和守 土屋但馬守 大久保加賀守

去^ル頃御預^ケ被成候御代官引負勘定不足^二付^三昨日三宅

鳴^江流人被 仰付候御穿鑿之内本多作左衛門^江御預^ケ

福村長右衛門

長右衛門^江御預^ケ

福村勘右衛門

同 次郎八

同 追放

同 出家老入

右御穿鑿之内遠藤外記^江御預被成佐野宇兵衛

切腹被 仰付奉

関口作左衛門

同 作兵衛^{廿五}

同 虎藏^{十三}

同 虎藏^{十三}

右作右衛門義御穿鑿之内淺野又市^江御預之内御勘定罷立候様^ニ被^レ 仰付候得共御勘定大分不相立其上父之代より御勘定引負^ニ付切腹被^レ 仰付之

為檢使 日根權十郎
右被遣候作右衛門儀は野又市郎^ニ 切腹被^レ 仰付候虎藏^ハ 加々爪甲斐守^江御預同日切腹被^レ 仰付候

一 御代官福村長右衛門佐野平兵衛事數年大分引負勘定之仕上不罷成候付^ニ 切腹雖可被^レ 仰付之御用捨有之^ニ 宅嶋へ流罪被^レ 仰付^ニ 長右衛門子共三人被處同罪之旨於評定所大岡佐渡守嶋田藤十郎申渡之

長右衛門惣領 福村勘右衛門
二男 同 次郎八
三男 同 李助
四男 同 順教

是^ハ出家^ニ付江戸退散
一 御代官関口作左衛門事先年富田彦兵衛相果候時分大分之引負有之^ニ 御勘定之仕上不罷成候処手代関口作兵衛申上候は彦兵衛支配仕候御代官所被^レ 仰付候は彦兵衛引負之米金以連々相済可申之由訴訟仕付^ニ 兵衛儀被^レ 召彦兵衛跡へ御代官被^レ 仰付候処作左衛門代^ニ 至迄右之引負上納不仕重畳不屈被思召作左衛門^并 伴二人共切腹被^レ 仰付之

作左衛門惣領 関口作兵衛
二男 同 虎藏
右作左衛門^ハ先頃淺野又市へ御預作兵衛虎藏二人^ハ加々爪甲斐守へ被預置付^ニ 兩所へ日根野權十郎罷越件之趣申渡之令致切腹

覺 百五拾俵 関口作左衛門
右御代官所高式万式千式石七斗余引負合金壹万七千七兩子^{ヨリ}辰迄五年分也

右御代官所高式万式千式石八斗引負金四千七百五兩三分申^{ヨリ}辰迄九年分

式百俵 佐野平兵衛
右御代官所高三万百七拾四石六斗余引負合金八千五百拾貳兩三分子^{ヨリ}辰迄五年分也

福村長右衛門
右父子三人共伊豆三宅嶋へ遠流召遣兩人 岡村源六兵衛

岡本森兵衛
右兄弟嶋^江供仕候米拾俵鍋杯持參致し候由 佐野平兵衛

右同日^ニ同嶋^江遠流被^レ 仰付是^ハ老人家来も不召連飯米持參不被申候由船中共^ニ長右衛門益介之由也

三宅嶋之儀衣類等一圓無之候尤五穀之類一粒も無之地形皆岩石^ニ 木竹之類一円に無之衣類^ハは萩薄之類を集メ寒を防候由喰物^ハ輕嶋鯨此二色より外^ハ何も無之四方四里程之嶋^ニ 御座候人間六七拾人より外^ハ無之天氣能時分嶋鯨鯨を自分に釣り申候由売買無之雨天之時分^ハ鯨節少々ッ給罷在候由扱御流人^江老人^ニ蓬式杖^ニ渡り申候

右之通本竹は無之式尺余り三尺限り之三寸廻り之棘之岩躑躅を刳取岩廉杯^ニ取付^ケ蓬^ヲ懸^ケ罷在候由彼地^ニ 生れ申候者は各別住馴不申物杯は一日も住居申候事罷成儀無之由船着より嶋^江は式丈計高く御座候由舟より人の上^ケ申時分案内^ケ申籠^ニ引上^ケ申候由御座候相果候よ

り^ハ中々劣り之由咄申候船之通跡少々^ニも無之自然便り御座候^ニ金子米杯遣候へ十分一も届不申候由伊豆之大嶋八丈嶋杯^ハ都^ニ御座候由申候今度之人無嶋より^ハ之外劣り申候様^ニ申候以上

廿七日 大久保安藝守
右向後御老中嫡子並^ニ可相詰之旨被^レ 仰渡之

竹之間 渡邊久助
右之通被^レ 仰付能登守備中守申渡之

未下刻西丸^江被為^レ 成申下刻 還御
山里馬場乗馬上覽稲葉石見守組

吉良上野介
右從弟之忌酒井兵部娘死去

一 於御座間御鷹之雲雀廿充酒井河内守土井能登守堀田備中守へ被下之
一 御鷹之雲雀廿^ヲ被下

阿部對馬守 阿部美作守 安藤對馬守 井上相模守
土井兵庫頭 松平備前守 秋元撰津守 増山兵部少輔

廿八日 本多下野守
例月之通御札在之 右願之通弟万之助儀養子被^レ 仰付候 京極頼母

右嗣子無之^ニ付遣領三千石同名備中守領地^ニ添被下旨被仰渡之高之内^ニ付^ニ也

右詰衆被^レ 仰付候 一 荷二種 慈知院
右御目見は今度首尾克御暇掃寺^ニ付為御札献上之

一 御鷹之雲雀廿充被下之 水野右衛門大夫 小笠原山城守 板倉石見守 太田撰津守

廿九日 一 阿部播磨守へ御鷹之雲雀被下之旨於御座間御直^ニ息美作守へ被^レ 仰含拜領之

一 保科彈正忠御鷹之雲雀被下之旨於御座間御直^ニ被^レ 仰含之
一 専修寺使僧御暇^ニ付時^ニふく三被下之
一 板倉筑後守西丸下之屋敷願^ニ付差上^ル

柳營日記記

延寶五丁巳年

八月

御刀
土岐伊豫守
辰下刻御黒書院 出御

右御礼畢 御白書院 出御

館林殿
甲府殿
尾張殿
紀伊中將殿
水戸少將殿

右御礼畢

紀伊殿名代
安藤帶刀
水戸殿名代
中山備前守
尾張中將殿名代
生駒因幡守

右太刀目録を以御礼酒井河内守披露之

松平讚岐守
井伊玄蕃頭
松平左兵衛督
松平近江守

右御礼

大廣間 出御之刻杉戸之内 御老中太刀目録並置之一同 御目見大廊下 高家衆詰衆御奏者番寺社奉行衆 嫡子諸番頭諸物頭但三千石以上之面々太刀目録前置之一同御礼畢

大廣間 出御也御譜代大名諸大名衆太刀目録持參御礼畢間之襖障子開之下段敷居際立御也

三千石以上之寄合諸役人面々並居太刀目録並置之後座無官之医師並居一同御礼也

一東一卷 知足院
各以進物御礼 奈良惣代 銀座 朱座 本阿弥其外職人共

二日

高藏院様御法事昨朝より始「就夫昨夜上野土屋但馬守參詣今朝酒井雅楽頭稻葉美濃守參詣也」
今晚御法事寅下刻後夜行動始

日光御門跡

右御出座明辰上刻より千部讀經開白万端御作法無残所相調之段奉行入より注進之

一高藏院殿御贈位付位記口宣松平縫殿頭祖森川七大夫持參
一高藏院殿從一位之位記口宣等久世大和守日光御門跡へ被遣之

三日

御誕生日之御祝如例年高家衆詰衆御奏者番諸番頭諸物頭諸役人等餅酒熨斗何も殿中伺公之面々頂戴之
高藏院様御贈位從一位

勅許被 仰出之位記口宣等大御番森川七大夫持參候久世大和守日光御門跡被 仰遣之
昨夜上野久世大和守參詣今朝大久保加賀守參詣也

安部丹波守

右於大坂病氣以外之由注進之

新庄隱岐守

右於大坂先月廿七日死去之由注進之次飛脚到来

四日 奥若手藤左衛門神尾市郎右衛門當分最上御代官被 仰付

式日寄合延引依御法事也

松平丹後守於國元脇腹之娘死去也

一今度御法事付日光御門跡へ上使内藤若狹守被遣之御法事奉行水野右衛門大夫へ上意有之

安部撰津守

右被為 召之父丹波守於大坂病氣以外付彼地罷越

看病仕度由願之通御暇被下之由被 仰渡今日發足

右隱岐守於大坂死去之由彼地御番所以下家来相勤有之付弟甚助事依被差遣大坂 御暇被下之旨於久世大和守宅被 仰渡之人馬御朱印被下之

御給定衆

岩手藤左衛門

神尾一郎右衛門

右両人當分最上之御代官當分被仰付之

一高藏院様御法事付内藤上野介上野へ相詰

五日

上野御法事結願付為 御名代稻葉美濃守參詣御布施被遣之

日光御門跡
凌雲院
知樂院
宗光寺
勸理院
信解院
護国院

銀五百枚

銀廿枚

銀十枚

同断

同断

銀五百枚

鳥目三千貫

銀十枚

銀廿一枚

御法事相済付御詰衆登城也

水野右衛門大夫
小笠原山城守
太田撰津守
戸田備後守

右於御座之間 御目見也

金老敷 京都
羽坂 御殿

森川七大夫

右被下之躑躅之間大和守出座

能勢撰津守妻死去曾根源右衛門伯母也

一御一門方諸大名以下今日御香奠献上之覚

銀廿枚 女院御所 同五枚 甲府中將殿

同三十枚 甲府殿 同三十枚 尾張中納言殿

同断 館林殿 同断 紀伊中納言殿

同十枚 千代姫君御方 同廿枚 水戸宰相殿

同五枚 尾張中將殿 同二枚 一条内府母儀

同十枚 紀伊中將殿 同断 松平紀伊守内室

同五枚 水戸少將殿 同断 松平安藝守母儀

(日記の順番はページごとに上段～下段)

同二十枚	安宮御方	同断	同人内室	同二枚	宗 對馬守	同二枚	小笠原山城守	板倉伊豫守	本多長門守	金森万助	石川若狭守
同三枚	淳正院殿	同断	松平相模守内室	同三枚	松平隠岐守	同二枚	太田摂津守	一柳山城守	岡部寛左衛門	加藤織部	小笠原備後守
同十枚	鎭林殿廉中	同断	松平新太郎内室	同老枚	喜連川左兵衛督	同二枚	板倉石見守	太田道顕	永井大学	土方河内守	松平大学
同三枚	尾張殿廉中	同断	戸田一閑内室	同五枚	酒井雅楽頭	同二枚	阿部美作守	堀 長門守	鳥居左京亮	本多弾正忠	山口修理亮
同三枚	桂昌院殿	銀三枚	松平左京大夫	同二枚	酒井河内守	同三枚	本多下野守	北条伊勢守	堀 市正	木下右衛門大夫	分部隼人正
同三枚	紀伊国殿息女	同十枚	松平越後守	(改ページ)				京極備後守	伊東信濃守	池田数馬	最上刑部
同一枚	松平左兵衛督内室	同三十枚	松平加賀守	同三枚	松平下総守	同三枚	黒田宮内少輔	阿部伊豫守	那須遠江守	加藤内蔵助	溝口伊豫守
(改ページ)				同老枚	土井能登守	同二枚	脇坂中務少輔	松平山城守	土井兵庫頭	岩瀬市兵衛	小笠原土佐守
同二十枚	松平陸奥守	同五枚	松平土佐守	同老枚	堀田備中守	同二枚	有馬左衛門佐	堀 飛騨守	筒井内蔵	小堀和泉守	前田右近大夫
同三枚	松平摂津守	同廿枚	松平大隅守	同三枚	榑原熊之助	同二枚	鍋嶋加賀守	本多作左衛門	渡辺越中守	片桐主膳正	伊達宮内少輔
同三枚	松平出雲守	同十枚	松平丹後守	同三枚	戸田左門			諏訪因幡守	遠山主殿頭	大関信濃守	安部丹波守
同二枚	松平刑部大輔	同十枚	松平安藝守	同三枚	水野美作守			遠藤外記	土屋伊豫守	稲垣信濃守	三浦志摩守
同二枚	松平播磨守	同十枚	松平相模守	同三枚	本多中務大輔			小出伊勢守	松平對馬守	屋代越中守	土岐山城守
同三枚	松平三河守	同十枚	松平伊豫守	同三枚	仙光院殿			毛利刑部少輔	植村右衛門佐	小出大隅守	建部内匠頭
同廿枚	松平越前守	同五枚	佐竹右京大夫	同三枚	小笠原遠江守			立花和泉守	六郷佐渡守	内藤右近大夫	酒井日向守
同十枚	松平大膳大夫	同十枚	保科筑前守	同三枚	真田伊豆守			西尾隠岐守	毛利日向守	山内右近大夫	松平佐渡守
同廿枚	松平右衛門佐	同十枚	井伊玄蕃頭	一銀二枚充				織田信濃守	三宅能登守	一柳對馬守	本多美作守
同廿枚	細川越中守	同十枚	藤室和泉守	丹羽若狭守	淺野式部少輔	松浦肥前守	黒田甲斐守	大久保石京亮	板倉市正	大久保山城守	戸田備後守
(改ページ)				奥平小次郎	松平豊後守	井上相模守	鍋嶋摂津守	本多肥前守	大村因幡守	真田伊賀守	堀 周防守
同三枚	松平伯耆守	同三枚	酒井左衛門尉	松平九十郎	阿部對馬守	伊達遠江守	小出備前守	青山和泉守	佐久間備中守	田村隠岐守	五嶋淡路守
同三枚	松平信濃守	同三枚	松平大和守	松平伊豆守	淺野又市	松平主殿頭	中川佐渡守	井上筑後守	秋元摂津守	内田出羽守	高木肥前守
同老枚	織田山城守	同二枚	松平但馬守	仙石越前守	京極備中守	岡部内膳正	伊東出雲守	酒井越前守	丹羽勘助	有馬伊豫守	加々爪伊斐守
同三枚	上杉弾正大弼	同二枚	松平中務大輔	本多平八郎	永井信濃守	本多出雲守	戸田采女正	井伊伯耆守	太田原山城守	岩城伊豫守	木下淡路守
同五枚	松平讃岐守	同三枚	松平越中守	戸田一閑	松平周防守	松平飛騨守	水谷左京亮	久留嶋信濃守	毛利安房守	牧野因幡守	市橋下総守
同老枚	織田内記	同二枚	森 内記	溝口信濃守	松平丹波守	本多兵部少輔	板倉隠岐守	松平市正	伊丹大隅守	保科弾正忠	織田主殿
同二枚	毛利甲斐守	同二枚	松平源英	水野隼人正	津輕平藏	小笠原内匠頭	稲葉石京亮	相良遠江守	米津出羽守	松平伊賀守	内藤和泉守
同三枚	森 伯耆守	同三枚	松平新太郎	戸沢能登守	内藤紀伊守	加藤遠江守	南部大膳大夫	土方備中守	朽木伊豫守	増山兵部少輔	九鬼和泉守
同三枚	立花飛騨守	同三枚	松平紀伊守	秋田信濃守	松平和泉守	内藤左京亮	藤室佐渡守	龜井能登守	嶋津又吉	松平遠江守	南部遠江守
同三枚	松平大藏大輔	同老枚	牧野佐渡守	青山因幡守	土井周防守	安藤對馬守	本多越前守	堀 左京亮	酒井石見守	松平備前守	細川若狭守
(改ページ)				水野右衛門大夫	牧野老之助	松平日向守	相馬出羽守	細川豊前守	同 丹後守	池田信濃守	池田丹波守
同三枚	松平出羽守	同三枚	稲葉美濃守	石川主殿頭	一銀一枚充			京極甲斐守	松平岩松	松平上野介	松平頼母
同五枚	松平阿波守	同三枚	久世大和守	西郷若狭守	小笠原太郎左衛門	松平右近	森川出羽守	柳生對馬守	蜂須賀飛騨守	鍋嶋備前守	青山大膳亮
同三枚	松平薩摩守	同三枚	土屋但馬守	永井市正	九鬼大隅守	谷 出羽守	戸川縫殿助	津輕越中守	同 備中守	松平因幡守	板倉筑後守
同三枚	丹羽左京大夫	同三枚	大久保加賀守	青木甲斐守	森 對馬守	大森半七郎	大久保平左衛門	石川美作守	内藤若狭守	牧野遠江守	秋月佐渡守
同五枚	有馬中務大輔	同三枚	戸田越前守					大森信濃守	那須玄竹	堀 宗悦	意安法印

右席焼火之間大和守出座

毛利伊豫守頃日死去也

一 松平若狭守大野より掃府^二付箱着 御目見

一 内藤和泉守銀馬代根矢百池田丹波守銀馬代時服三を捧參勤御礼申上之

一本多彈正少弼へ時服四羽織田村右京大夫^江同三羽織被下之御暇^二付^而也

一 安藤對馬守在所へ御暇被下但賜物なし

一 紀伊中納言殿使者村上与兵衛 御目見は大久保加賀守御役儀被 仰付

弥重之旨申来

十六日

一 紀伊黄門使者村上与兵衛御暇時服三羽折被下之

十七日

紅葉山御名代無之毛伊豫守死去^二付^而也依為御從弟也

土井能登守

右姪之差合同名周防守妹死去

十八日

大沢右京大夫

右京都帰登 城也

一 今般於上野御法事 付御香奠献上之使者御暇

時服四 大嶋三左衛門 同三充 白井内蔵助 都築六左衛門

十九日

高嶽院様 御贈位 勅許之為御礼織田主計頭京都^江可被遣之旨被 仰渡之

御勘定方

万年長十郎

山田六右衛門

奥津伊左衛門

近山六左衛門

右四人為関口作右衛門福村長右衛門代當分上総国御代官

被 仰付候席焼火之間大和守

廿日

上野 御名代 御忌中故無之

廿一日

西丸^江 御成御延引

松平越後守内室以之外之儀

廿二日

評定所式日寄合 稲葉美濃守

武田越後守

堀田撰津守

兩組中

右御番改有之

甘露寺宰相殿内方死去是本多兵部少娘也

加藤権左衛門

諏訪部文九郎

右兩人奥州御馬買可被遣之旨

一 大沢右京大夫京都より掃參^二付今日 御目見

一 酒井雅楽頭^江為 上使以米津周防守御菓子被下之

一 御座間へ保科彈正忠召之去頃御加恩之御書出被下之

廿三日

桑山修理亮

右願之通隠居被 仰付之領地

高老万三千石余之内

老万千石余

千式百石

八百石

右之外^二新田式百石都合千石^二被成候^而右之通被下之

松平越後守内室夜前死去是松平大膳大夫姉也御老中不残

御見舞也

廿四日

増上寺御名代久世大和守

御目付 嶋田藤十郎

御徒頭 石野八兵衛組共

上使稲葉美濃守

松平越後守

右内室卒去為御悔被遣之

廿五日

御座之間

織田主計頭

禁裏^江

銀五百枚

法皇^江

同三百枚

本院^江

同式百枚

新院^江

同斷

女院^江

同斷

女御^江

同百枚

右は高嶽院様^江

御贈位 勅許之為御礼被進之則織田主計頭持參也

一新院御所 女院御所へ初銚御進獻之

廿六日

御香奠

銀式百枚被遣之

一 松平陸奥守より領内之初菱喰進上之

廿七日

巳后刻西丸^江被為 成候

於山里乘馬被 仰付水野長門守組土岐伊豫守組

右頃日御癒御煩之由也

一 佐竹右京大夫より領内之初菱喰進上之

尾 張 殿

廿八日

家督之御礼

初^三御目見且分知被下之御礼

同 幾之助 同 岩松

右三人駿府加番依差遣御目見被下之

一 永井佐渡守湯治掃^三付以箱肴 御目見

(金五枚 時服三羽折) 稲葉石見守 銀二十枚 前田帶刀

右駿府御番依差遣 御目見

例月之通御礼在之

一 神尾下總守參府^二付以太刀目録御礼申上之

一 大岡次郎兵衛曾根五郎兵衛以箱肴御礼申上之

一 駿府御番被差遣御書院番之輩如例白銀拾枚充被下之同俵共初て 御目見

被 仰付左之通

宇右衛門惣領 左次右衛門惣領 甚五兵衛惣領

次郎右衛門惣領 源右衛門兼子 中根大守惣領 榊原長十郎

安倍權四郎 山田又八郎 國書惣領 伊丹与次右衛門

一 禁裏へ初菱喰御進献之

一 御花入青磁中蕪桑山修理亮隠居付^兩差上之

廿九日

無記事

晦日

日光御門跡^江

右日光^江近日御登山付医者平田道有差添可被遣之旨被

仰渡之

一 南部大膳大夫より領内之初鶴進上之

一 酒井雅樂頭忌中免

柳營日記記

延寶五^{丁巳}年

九月

朔日

例月之通出仕御礼在之

右忌御免候得共病氣故登 城無之

一 淺野式部少輔箱肴を以 御目見是病後之御礼也

一 池田信濃守在所へ御暇^二付時服十被下之

一 上州世良田長閑寺權僧正一束一卷を捧繼目之御礼申上之

一 武州仙波喜多院同断

一 東海寺輪番罷下候後殿東巻を捧 御目見同輪番相渡候天倉御暇^二付銀百枚時服

五被下之

一 坂本弥七郎條五筋を捧 御目通拝伏

一 禁裏へ初鶴御進献之

一 法皇 本院御所へ初菱喰御進献之

二日

一日

一日

日光御門跡^江 上使吉良上野介 同 酒井忠政守 同 酒井忠政守 同 酒井忠政守

式三番 弥太郎

白髭 金春 六右衛門 (一) 兵衛 長右衛門 (二) 兵衛

忠度 七大夫 源七 (一) 兵衛 清六 (二) 兵衛 山三郎

江口 保生 六郎二 (一) 兵衛 新九郎 (二) 兵衛 市右衛門

羅生門 平右衛門 六右衛門 (一) 兵衛 六藏 (二) 兵衛 惣右衛門

撰待 保生 六郎二 (一) 兵衛 清五郎 (二) 兵衛 安兵衛

橋弁慶 七大夫 源七 (一) 兵衛 新十郎 (二) 兵衛 安兵衛

祝言 金剛 源七 (一) 兵衛 介右衛門 (二) 兵衛 清右衛門

せんし物 弥太郎 (一) 兵衛 弥太郎 (二) 兵衛 弥太郎

比丘さた 傅右衛門 (一) 兵衛 傅右衛門 (二) 兵衛 傅右衛門

釣狐 弥太郎 (一) 兵衛 弥太郎 (二) 兵衛 弥太郎

花あらしひ 八右衛門 (一) 兵衛 八右衛門 (二) 兵衛 八右衛門

右三番過要脚廣蓋相濟所々於御座敷御振舞在之其後御能

四番過^兩 入御也

緩々見物可有之旨上使 可有勲酒旨御饗應之席へ上使

久世大和守 稲葉美濃守 美濃守上野介 日門へ

日門へ 館林殿へ甲府殿へ 御能始良服渡共酒井河内守

四日

式日寄合久世大和守大久保加賀守出座也

稲葉丹後守伯母之忌毛利刑部少輔姉死

一如例年御一門方諸大名より重陽之時服献上之

一井上兵庫頭京都より帰謁

五日

一松平大隅守參府 上使稲葉美濃甲斐被遣之

六日

山口修理亮死去

一日光御門述明後日為登山發足之由依之上使以大沢兵部大輔御菓子被遣之

七日

日光御名代被 仰付候

十七日御名代 上杉伊勢守

十七日御祭礼奉行 内藤和泉守

右被遣候間用意可仕旨

一 法皇本院御所へ初鶴御進献之

八日

遠州御代旨

平野三郎右衛門

右御役御免隠居被 仰付伴三郎五郎 跡役被 仰付之

一 御代官松平市右衛門御暇時服二被下之

九日

御黒書院 出御 御刀 米津周防守

御 兩 殿

右御礼畢 御白書院 出御

御三家方

御連枝方

右御礼畢 大廣間 渡御之刻大廊下 高家衆詰衆御

番頭諸物頭諸役人一同御礼大廣間 渡御諸大名御礼畢 入御也

保科彈正忠

右為引渡天野甚左衛門可被遣之旨被 仰渡之

尾張黃門殿

右御病氣為御見舞被遣之

御礼 山王別當 親理院 卷敷 山王神主 日吉大膳

鞍一口 井間二郎八

十日

有馬中務大輔

右息源七郎昨夜死去也

一 女院御所より重陽之御使宮崎七郎左衛門御暇 御内書相渡銀五枚被下之

十一日

新院様 女院様 以宿繼初菱喰被遣之

十二日

式日寄合評定所 土屋但馬守大久保加賀守出座也

一 御座間 上杉伊勢守内藤和泉守 御目見日光へ當月十七日御名代且

又御祭礼為御用被差遣付 御暇日光御門跡へ二種一荷被遣之奉書等渡之伊勢守へ人馬御朱印被下之

十三日

新院様御旨

小笠原丹波守

大坂町奉行 彦坂老岐守 岩瀬市兵衛

右三人願之通病氣付又老衰 付御役御免被 仰渡之

大御番 入番被 仰付

大久保右京亮小普請役

青木太郎右衛門

右植村土佐守組 入

去八日之夜丑刻伊勢之内宮之町屋方出火町屋式百軒余

橋姫と申小宮一守焼失御宮は無恙之由注進之

一 松平大隅甲斐雖為參勤病氣 付使者を以白銀五百枚握々皮十間羅紗十間献上之

一 松平丹後守使者 御暇時服三被下之

十四日

無記事

十五日

例月之通御礼畢 參勤御暇之御礼有之

一 松平根津守湯治掃 付箱香を以 御目見

一 御太刀目録金馬代 參勤 永井信濃守

一 羅紗十間 御暇 本多兵部少輔

一 時服十羽折 御暇 高野山字四方 如意輪寺 行人方

一 一東一卷光 為輪番代罷下付 同 来迎院

一 箱香 病後御礼 稲葉右京亮

一 銀馬代染革十枚 參上 荒川奉行 中根平十郎

一 火繩十筋 參上 大坂御藏奉行 本間十左衛門

一 當山二宿進物前 置 御目見御礼束本献上

一 時服三 天徳院 同 蓮華定院

右輪番相代り御暇 付被下之

十六日

一 春木大夫山本大夫使者御暇時服二充被下之

十七日

辰后刻紅葉山 御宮 御參詣即刻 還御

日光御日付代 新庄与惣右衛門

右被 仰付之

一 土井能登守堀田備中守松平因幡守石川美作守其外如何供奉

御先達 稲葉美濃守 御親 土岐伊豫守 御香 稲垣市正

一 水戸少将殿 御對顔

一 知楽院拜迎

一 稲葉美濃守土屋但馬守大久保加賀守豫參

十八日

御醫師 三雲施薬院

五百石余 土岐重元

右老病 付願之通隠居被 仰付之則右子共三雲治部卿土

岐格庵 家督無相違被 仰付候於菊之間老中列座美濃守

殿被 仰渡

小普請 佐野善左衛門 事

右土屋兵部少輔組 御番入被 仰付之

一 新院御所 女院御所 初鶴御進献之 (この行日次記にはなし)

一 松平越後守因元到着 付以使者嶋田半門を以箱香差上之

一 新院御所 女院御所 初鶴御進献之

十九日

一 尾張中納言殿病病之様林為可被 開召為 上使内藤若狹守を以御菓

子被遣之 奥 龍眼肉

一 當山二宿御暇時服二被下之

廿日

辰后刻紅葉山 御堂 御參詣即刻 還御也

上杉伊勢守

内藤和泉守

右日光掃国於 御座之間 御目見也

供奉 土井能登守 堀田備中守 松平因幡守 石川美作守其外如何例

御先達 酒井河内守 御親 米津周防守 御香 能勢根津守

水戸少将殿 御對顔 知楽院拜迎

豫參 久世大和守 土屋但馬守 大久保加賀守
御參詣相濟^二付如何御一門方々使者を以被賀之

廿一日

營中無記事
千代姫君様御所望^三付伽羅二木被遣之

廿二日

式日寄合久世大和守大久保加賀守出座也
大御番組頭被 仰付

武田越前守組
青山平助
西尾藤四郎

右席躑躅之間^二おみて老中列座美濃守殿被 仰渡之
一為駿府御番代福葉石見守依被遣之彼組同心^三被下人馬御朱印被渡之

右兩人事奥州へ御馬被遣之付^而御暇被下之

廿三日

右病氣御役御免也
牧野佐渡守昨夜四時分死去也
一八幡豐藏坊使僧御暇時服^一被下之

廿四日

辰后刻紅葉山 御參詣也

右昨日御飯寺^二付被遣之
日光御門跡

一土井能登守堀田備中守^并松平因幡守内藤若狭守其外例のごとく供奉
一御先立 酒井河内守 御刀 酒井老岐守 御香 渡邊安藝守
一水戸少將殿陪拜 増上寺拜迎
一美濃守大和守但馬守加賀守豫參
一還御後御兩典參詣

一御參詣濟^二付御一門方より如何以使者被賀之
一日門日光山より帰寺^二付 上使畠山下總守被遣之

廿五日

隱居被 仰付面々席波之間老中列座雅樂頭令傳
老万千四百石余

四千字内
三千五百石

五百石

三千八十石

傳右衛門取家三百俵は半兵衛へ
隱居料として被下之

太田原山城守

同 備前守

同 戸田相模守

同 石見守

同 惣左衛門

日向半兵衛

同 傳右衛門

久保吉右衛門

同 五兵衛

鳴田藤十郎

鵜殿十郎左衛門

成瀬惣右衛門

織田主計頭

日光御門跡

日光御門跡

一久留嶋左兵衛堀小四郎大坂より帰參^二付 御目見

廿九日

右跡式無相違息主殿^江相續可仕旨老中列座被 仰渡之
一御座間保科輝正忠被召出之大坂へ御暇^二付金十枚時服五被下之且御
黒印下知状相渡之

新庄隱岐守

殿中無別条也

黒田甲斐守家来神田橋於御番所令乱心左之通^二候乱氣
而死

殿中無別条也

黒田甲斐守家来神田橋於御番所令乱心左之通^二候乱氣
而死

殿中無別条也

殿中無別条也

殿中無別条也

殿中無別条也

殿中無別条也

殿中無別条也

殿中無別条也

殿中無別条也

殿中無別条也

廿六日

御役替被 仰付之

大坂町奉行
彦坂老岐守跡
御留守居
岩瀬市兵衛跡
同断
大森半七郎跡

右席芙蓉之間老中列座美濃守申渡之右傳右衛門五兵衛取
来候御切米三百俵隱居面^二被下之

同 五兵衛

同 久保吉右衛門

同 傳右衛門

日向半兵衛

同 石見守

同 戸田相模守

同 備前守

同 太田原山城守

同 織田主計頭

同 日光御門跡

同 日光御門跡

同 日光御門跡

同 日光御門跡

廿七日

御座之間

織田主計頭

日光御門跡

廿八日

例月之通御礼有之

右當月之御祈禱料被遣之

一井伊玄蕃頭以箱着日光より帰參御礼申上之

一松平薩摩守因許へ御暇^二付御馬^并時服五十被下之 奥 上使但馬守

一尾黄門より使者大道寺玄蕃被差上は今度病中度々 上使被遣御菓子等押
領悉被存大形所勞被御快氣付^三先以使者御礼被申上之

一後藤良清義依病氣隱居奉願付^三地方五十石無相違子庄三郎へ可譲与
之旨被 仰付之

一愛宕山長床坊使僧御暇時服^一被下之

右此若党も大右衛門乱氣と^ハ不存勝手より罷出随分働申
候由是昨廿九日四時分之事也

柳營日次記

延宝五丁巳年

十月

朔日

例月之通御札在之

(金馬代 參勤 紗綾二十卷 銀馬代 時ふく武)

龜井能登守 和田式部

二日

無事

右氣色以外之由

土屋伊豫守

三日

御座之間

(金三枚 時服二 羽織) 新番頭 天野甚左衛門

右大坂為 御使被遣之是御定番保科彈正忠為引渡也

小普請之輩御天守御土藏兩所へ御番入

御天守番被 仰付面々

大久保右京亮組 角左衛門子 高橋左次右衛門 五郎左衛門子 関 五郎左衛門 板倉市正組 久右衛門子 久野權左衛門 弥三左衛門子 鈴木弥一郎 佐左衛門子 藤井左太郎 二郎左衛門子 新井助大夫 佐五右衛門子 重本五郎兵衛 大久保山城守組 甚右衛門子 岩下庄五郎

一 富士見御宝藏番被 仰付之

元本理院院衆 北村奎之助 岡本市之丞 露木庄右衛門 戸塚八左衛門

戸田備後守組

伊兵衛子

依田七左衛門

十兵衛子 川村傳八郎

右於躑躅之間老中列座大和守申渡之御留守居衆列座

尾黄門之壺口切之御茶一種一荷被献之

四日

式日寄合稻葉美濃守大久保加賀守出座也

御役替御徒士頭之

高木善左衛門

安藤治右衛門

曾我權之丞

右三人於 御座之間 御目見被 仰付候

五日

法皇様 女院様新御殿へ御移徒付為 上使京都 吉

良上野介可被遣旨被 仰渡之席御黒書院溜老中申渡

六日

長元子 土岐格庵 与庵弟 片山宗元

右式人御番醫師被 仰付候席御右筆部屋縁類但馬守能

登守列座但馬守申渡

七日

御刀 内藤上野介

今曉玄猪付御譜代大名衆諸番頭諸物頭諸役人諸奉行

法印法眼之醫師當番之御番衆及暮各登 城也

酉后刻御白書院 出御各五色之餅頂戴

八日

無事

酒井雅樂頭

右口中氣登 城無之

九日

無事

十日

右願之通隱居被 仰付之跡式不殘惣領甚五兵衛被下候

旨被 仰渡之

松平加賀守之壺口切之御茶献上之

十一日

無事

十二日

式日寄合久世大和守大久保加賀守出座也

已刻御黒書院 出御參勤御暇御礼有之

(奏政拾枚 銀馬代 泥障二懸 銀馬代 切付五口 銀馬代 金五枚 時服三 繼目御礼)

(金五枚 時服三 繼目御礼)

關所御番

渡辺因嶽

建部内匠頭

石河藏人

戸田右近大夫

新庄主殿

太田原備前守

日向傳右衛門

日向半兵衛

柴田和泉守

内田傳左衛門

同 組中

太田原山城守

松平新太郎

松平越中守

岩城權之助

松平志摩守

松平三河守

右忌明登 城謁老中退去也 土屋但馬守
山内右近大夫昨日死去也

十四日

巳后刻西丸^江被為 成也

十五日

例月之通御礼有之

當月九日之夜水戸領浦々^江大波入損毛有之覺

潰家

死人

破損船大小五十三艘稻四百三十式駄殺物千四

百俵

右之通之由注進之

東卷

參上

東本

進物

〃

〃

〃

奥岡野美作守へ甲府殿所勞之御尋有之

十六日

右昨日湯治之御暇被遣之

女院御所 御新殿^江去十一日御移徒之由也

十七日

紅葉山 御名代稻葉美濃守也御目付川口源左衛門御徒

頭能勢惣十郎

下総国関宿
總寧寺之後住
武州成田
竜 瀧 寺
徹 應

右被 仰付之 上意之趣酒井雅樂頭申渡之老中列座席御
白書院縁類

十八日

御役替左之通

御徒頭

高木善左衛門跡

同断

安藤治右衛門跡

同断

曾我權之丞

御座之間

御香三種

典二種 (日記記は二荷)

法皇^江

金式拾枚

繡跡三十卷

二荷三種

女院^江

銀式百枚

羽二重三十疋

三種二荷

銀式拾枚

銀廿枚

銀式百枚

右之通今度新御所^江御移徒^二付被遣之則上野介持參之

右組中御番改在之

法皇 女院御殿御普請中御滯座^二付被遣之

銀三百枚

同式百枚

鷹 司 殿

同 政 所

同三百枚
右之通以宿繼被遣之
松平越後守内室遺物以使者

右進上之

御屏風一雙 雪舟筆花鳥

重陽時服献上之面々へ 御内書被成下

御軍箭頭伴權左衛門病免

廿日

上野 御堂 御名代久世大和守

廿一日

無事

廿二日

式日寄合稻葉美濃守大久保加賀守出座也

尾黃門氣色為御尋酒井老岐守 上使被遣之

廿三日

無事

廿四日

増上寺 御名代土屋但馬守

時ふく五 御暇

廿五日

午刻西丸^江被為 成也

奥山里^二稻垣備後守組米津周防守組田中大隅守組乘馬

上覽

駒井左京一昨日死去也

法皇 本院へ御鷹之鶴御進献之

(一種十卷 掃子十卷 二種一荷 掃子十卷 掃子十卷)

廿六日

時ふく三 御暇

松平土佐守 使者

松平土佐守 使者

廿七日
無事

廿八日

例月之御札在之

（銀馬代）參府 織田信濃守
 切付三懸 參上 岡野孫九郎
 泥障三懸 參上 小笠原能登守
 （小秋式箱） 有馬左衛門佐
 銀馬代 湯治掃 龜井伊与守
 箱着 御暇 溝口豊前守
 時ふく四羽折 御暇 稲葉丹後守
 被下物欠 〃 〃 總 寧 寺
 二束一卷 繼目 高野山 大徳 院
 東本 參上 金地 院
 奥二束一卷 繼目 後藤庄三郎
 金二十兩 〃

廿九日
御小姓組御書院番より御進物番^江入番被^仰付

大草主膳正組 長谷川三郎左衛門
 同野隠殿守組 堀田善右衛門
 青山信濃守組 桑山十左衛門
 大久保豊前守組 山中五郎左衛門
 同 組 山田市郎兵衛
 池田帯刀組 齋藤次左衛門
 米津周防守組 永井主税
 池田帯刀組 青木新五兵衛
 稲垣備後守組 長 彦四郎
 水野長門守組 水野權七郎
 荒川出羽守組 喜多見五郎左衛門
 町野老岐守組 森 六兵衛
 柴田和泉守組 太田甚四郎
 安藤老岐守組 松平主税
 本多備前守組 高木甚次郎
 稲葉出羽守組 三浦忠七郎

土岐伊与守組 本多半右衛門
 中根大膳守組 溝口次郎大夫
 酒井老岐守組 曾根孫左衛門
 大草主膳正組 小長谷次郎右衛門

一 當月九日上総浦阿部伊豫守知行所^江上湖上^ル由也

小濱浦

家数廿五六軒
男女死九人

岩船浦

同 四十軒
同 五十七人

矢指戸村

同 廿四五軒
同 拾三人

御領和泉村

家数不知田畑数多
男女死十三人

御宿浦

阿部播磨守知行所
同 百七十軒
同 五十三人

東湯見村

知行不知
同 四拾軒
同 九拾七人

部原村

植村土佐守知行
同 五六軒
子供式人死

沢倉村

同 拾壹軒
同 斷

川津村

板橋与五右衛門知行
同 拾九軒
同 斷

牛馬船数不知勝浦^ハ無別条每日地震昼夜十七八度廿度
宛震申候

一 當月九日亥刻奥州岩城領内浦々^江波打入人馬船流候是
内藤左京亮知行

家数三百三十軒流倒^ス此外破損家数多也
塩竈拾局破損

一 胤船荷船十七艘破損之内拾一艘^ハ行衛不知
女廿九人此外怪我之者数多牛馬三十疋

一 遠山主殿領内
家数式百十八軒流倒此外破損家数多

一 胤船荷船三十一艘内二艘行衛不知
溺死四十四人内男廿四人女廿八此外怪我之者数多馬五疋

内藤右近領内

家数三十九軒流倒^ス
松五十四艘破損

溺死十三人内男八人女五人此外怪我数多馬三疋

一 同九日夜尾州知田郡内海師崎浦^江高瀬十四五度差引在之
中^{ヨリ}光り物三^ツ出北西方^江通り申候内海浦^ニ胤船廿
四五艘破損仕候由田畑在家人馬等無恙候磯例少く地
震仕候由也

時ふく式 御暇 九条殿使者 調子和泉
右二条殿養子元服^ニ付被遣候也 水宰相使者 野村惣右衛門
時ふく三 御暇

柳營日次記

延宝五丁巳年

十一月

朔日
例月之通御札在之其外別条無之

二日
無事

三日

右被為 召野御合力米壹万俵被下旨老中列座^二被仰
渡之

右東金之御鳥見被 仰付
松平肥前守昨夜死去也

新院 女院へ御鷹之鶴御進獻之
御使者

四日
評定所式日寄合土屋但馬守出座也
御座之間

右於御座之間 御目見
御使者

五日
無事

六日
於御前御腰物拜領之面々^{銘ハ不致欠}
御腰物尻掛則長

代金八枚

五日拜領之文之印

吉岡一文字
代同斷

來國光
代同斷

青江貞次
代同斷

備前正恒
代同斷

遠江貞次
代同斷

代金七枚

御小姓衆被下物
備前定真
代金七枚

左弘安
代金七枚

備前近景
代金七枚

玉吉
代七枚

青江貞次
代金七枚

延壽玉吉
代七枚

長儀
代七枚

來國俊
代七枚

備前長光
代七枚

元重
代七枚

備前景光
代七枚

御小納戸衆
延壽玉泰
代金五枚

御側御番頭
酒井老岐守 二

内藤上野介 三

土岐伊豫守 四

米津周防守 五

新御番頭
遠山半左衛門 十六

御小姓
稻垣市正 八

神尾飛騨守 六

堀山城守 十四

能勢撰津守 七

朽木和泉守 九

小笠原佐渡守 十

瀧川相模守 十二

渡辺安藝守 十一

小出下野守 十三

山田甲斐守 十四

仙石丹波守 十五

御小納戸
牧 七左衛門 四

青江貞次
代金五枚

青江吉次
代同斷

備前光忠
代同

備前祐貞
代同

來國俊
代同

信國
代同

順慶
代同

則重
代同

祐貞
代同

備前恒弘
代同

左文字
代同

新藤五国光
代同

備前景光
代同

元重
代同

代金同

松平傳左衛門 二

甲斐庄三郎右衛門 六

山崎伊兵衛 五

大久保兵九郎 三

本多金右衛門 一

秋浦平右衛門 八

遠山權左衛門 七

板本小左衛門 九

永井彦兵衛 十

大久保一郎右衛門 十五

須田市兵衛

小栗十郎右衛門 十四

河合平大夫 十二

天野傳四郎 十三

池田數馬

甲斐庄
山崎兩人
七日被下候

御小姓
時ふく五

御馬代
參勤

御小姓三枝對馬守御小納戸大久保孫兵衛江原九郎右衛門
大久保三十郎病氣付不能出

右之通被下之

參勤病後御暇之御札有之

七日

(金馬代) 參勤
松平但馬守

(金馬代) 黒田宮内少輔

(金馬代) 青山大膳亮

(金馬代) 松平備中守

(金馬代) 鍋嶋加賀守

(金馬代) 佐藤与左衛門

(金馬代) 尾中將使者

(金馬代) 高野山 施葉院

(金馬代) 大徳院

(金馬代) 金剛大夫

(金馬代) 高安彦太郎

(金馬代) 長命清左衛門

(金馬代) 高安三右衛門

(金馬代) 金春八左衛門

(金馬代) 八左衛門儀、南都兩度之神事金剛大夫若葉三付名代被

(金馬代) 造三付被下之

(金馬代) 兩典へ 上使酒井老岐守を以御鷹之鶴被造之

(金馬代) 八日 時ふく式 御暇

(金馬代) 尾中將使者 佐藤与右衛門

(金馬代) 九日 山口修理亮

(金馬代) 右跡式老万石余無相違息長次郎被下之

(金馬代) 尾黄門へ 上使石川美作守御鷹之鶴被造之

(金馬代) 十日 無事

(金馬代) 十一日 午刻西丸被為 成 奥山里 永井佐渡守組本田備前守

(金馬代) 組乗馬 上覽

(金馬代) 千代姫君へ御鷹之鶴被造之

(金馬代) 十二日 評定所式日寄合久世大和守也

小笠原山城守從弟忌

十三日 中根大隅守母儀昨日 死去

松平丹後守參府三付 上使大和守

十四日 紀黄門水宰相へ御鷹之鶴宿次を以被造之

十五日 如例月御礼相濟

山口修理亮より遺物

備前助宗代金七枚五兩右差上之

右婚姻相濟三付被献之

右鷹司殿へ婚禮三付献之

右王子 使僧

勝仙院

松平丹後守

石川主殿頭

本多肥前守

山口長次郎

十六日 銀十枚 御暇

十八日

法皇の御使者 東久世三位 女院の御使者 梅蘭三位

右御馳走人 仰付之

右御馳走人 仰付之

十九日 九條左大臣殿去、十二日 薨御是、館林殿御簾中御兄弟

之由也

右病氣以之外、息次兵衛、御暇被下之

御物数四十三

内御奉三

御奉二、白雁老、真鷹三、真鴨六、小鴨五、鷺十七

御奉二、白鷹二、白鳥老、分鷹二、菱喰老

酉后刻 還御也

廿三日

昨日御狩之鳥被遣之

馬二羽
被進之

御奉之白馬老

菱喰

右之通被遣之

時ふく式ヲ 御暇

若王子 使僧
勝仙院

上使内藤上野介
兩宰相殿江
同 安藤老殿守
尾張殿江
同 同女中
千代姫君様江
安宮之御方江

廿四日

増上寺 御名代稻葉美濃守参拜也

一 昨廿二日當冬初 御鷹狩被為 成御鷹相濟御褒美被下
面々左之通

伊奈半十郎

間宮左衛門

戸田七之助

清水権之助

小栗長右衛門

清水権之助

加藤傳十郎

小栗長右衛門

小野吉兵衛

大平角助

佐山角左衛門

蜂屋庄五郎

伊東傳五郎

木母寺

一 加藤伊織昨日死去也

先日嶋田藤十郎御加増地千石事當已物成以金子於江戸
拝領仕度旨願之通被 仰付

廿五日

午刻西丸被為 成也 奥 山里ニて青山信濃守組武田越前

守組乗馬 上覽

禁裏 御奉之白鳥老

女院様 御奉之白鳥老

右以宿継被進之

御鷹之
露被遣之

上使石九七兵衛
松平加賀守江

酒井雅楽頭娘

水野美作守江

右婚姻有之

廿六日

土屋兵部少輔組
稻富次郎右衛門

植村土佐守組
本間忠左衛門

伊奈左門

論所為見分可被遣旨被 仰渡之

右三人 川越

廿七日

上使時田八郎右衛門
松平大隅守

上使新庄与惣右衛門
松平相模守

右は御鷹之露被遣之

尾中侍使者
堀田民部

御暇

廿八日

例月之通御礼有之

御座之間

京都婦
御目見也

京都婦
御目見也

大坂婦
御目見也

御鷹之露
被遣ふお
時ふく三
御暇
上使久留嶋左兵衛
松平大膳大夫
水宰相使者
遠山頼母

晦日

御役替被 仰付

同組身頭

山角四郎兵衛跡

御籠筋奉行

佐野権右衛門跡

御從組頭

池田清左衛門跡

布地新左衛門跡

石奉行

藤川庄次郎後

右之通被 仰渡之

秋月佐渡守

右領分十月三日大風洪水覺但福嶋高老万石之処荒地

稻九千三百廿駄流失

川漬粉千五百俵余

田百五拾五町三反余

内畠老畝七反

右は砂入水洗又永荒之処多有之

井平川坊堤土手塩漬不残破損内十四軒流失

流失男老入

流失馬百廿五疋内牛老疋

商賣船三艘余破損

松平大隅守領賣船破損

但水主式人流失

池三ッ出来右は六千坪或は六百坪或は七百坪深サ四尋五

尋十尋程之池出来来申候此外小池所々出来申候

山所ニ式丁三丁崩抜

蕎麦粟大豆之類大分損之候由出雲守領分損失申候

稻福六百四拾流失

川漬粉三百七拾五俵流失

井間百三拾九ヶ所破損外ニ抱笥数多流失

倒家四拾七軒

溺死男女三人

流馬老疋

堰板八拾枚流失

一 大小船四艘破損
右之外砂入之由地敷^四所在之候へ共田敷未相知候
右之通御老中守夜^江申上候^二付如斯出雲守^江申は大形
伊東出雲守^二面可有之候

柳營日記記

延宝五^丁年

十二月

朔日

例月之通諸大名雖為出仕少々 御風氣^三付為御養生
御目見無之則老中列座酒井雅樂頭被仰渡之

如例年屋敷近所火之番相勤之家来可廻之旨傳之

尾張中納言殿
紀伊中納言殿
水戸宰相殿
松平加賀守
松平陸奥守
松平大膳大夫
松平讃岐守
真田伊豆守
松平隠岐守
阿部對馬守
榊原熊之助
松平出羽守

二日

東叡山 宝樹院様 御名代稻葉美濃守右は御忌月^二付
面也

三日

京都御普請出来^二付御褒美被下

銀五十枚

(金^江武枚
時^ふく武)

銀廿枚^ッ

銀十枚^ッ

中井主水

同 長五郎

矢倉久右衛門

池上五郎右衛門

弁慶小左衛門

今村備後

乾 越中

今村甲斐

西村志摩

御所方御普請之節過書船之輩辛勞仕^三付為御褒美銀式

貫目木村惣右衛門角倉与市へ被下之

時^ふく武

御暇

末吉孫九郎

四日

評定所式日寄合大久保加賀守出座也

甲府中将殿今日袖被直之^二付 大久保加賀守御祝儀被遣之

三種二荷

(時^ふく十
二種一荷)

右為御礼登 城

從甲宰相三種二荷同中将^二種一荷被献之

御鷹之齧松平丹後守へ被下之上使御使番

五日

無事

六日

上使溝口源右衛門

御鷹之齧
被遣之

表火之番

藤堂和泉守

梶田金兵衛

恒川安兵衛

福井寛大夫

高野武右衛門

山岡甚五左衛門

山内平大夫

右六人奥方火之番被 仰付之

七日

今度 法皇様 女院様御作事出来^二付奉行^江被下物

(金^江三枚
時^ふ折)

羽折

同 断

(金^江武枚
時^ふ服^二)

同 断

銀十枚^ッ

神尾若狭守

本多忠左衛門

秋山五郎兵衛

堀江左兵衛

御徒

拾 六人

同 御被官大工 鈴木与次郎 大石孫兵衛

右御移徒為御祝儀被下之

火之番 稻生太左衛門

右被 仰付女院御所へ被為附之小林与左衛門代也

千代姫君様御家老 山田太郎右衛門

右願之通御役御免

- 御後十六人名前
 - 天野佐左衛門組 秋浦吉左衛門 一
 - 岡野平兵衛組 福岡半右衛門 二
 - 土屋市之丞組 堺野八郎右衛門 三
 - 石野八兵衛組 戸田勘左衛門 四
 - 井戸新右衛門組 井井十右衛門 五
 - 佐野内藏允組 土屋源五右衛門 六
 - 安藤傳右衛門組 瀬戸八郎左衛門 七
 - 牧野傳藏組 齒部半左衛門 八
 - 小出數馬組 嶋田半大夫 九
 - 松平内藏助組 浅田三右衛門 十
 - 能勢惣十郎組 増井与一右衛門 十三
 - 松平新五左衛門組 宮本兵左衛門 十四
 - 宮城監物組 中嶋甚五兵衛 十一
 - 新井七左衛門組 毛呂与左衛門 十二
 - 藤堂主馬組 黒部勘右衛門 十五
 - 榊原大膳組 今井次郎左衛門 十六

千代姫君御方へ被附之山田太郎左衛門事願之通役儀御免 付其 右日来病氣^三付千石之御加増も差上役儀御免願^二付其 通被仰付之

八日

- 御留守居支配
 - 服部平六郎
 - 中山伊左衛門
 - 長峯三郎兵衛
 - 岡本四郎左衛門
 - 安問傳左衛門

右之通表火之番被 仰付候

十人 二丸火之番^江

- 二丸支配
 - 黒田喜左衛門
 - 栗津惣八郎
 - 長坂新右衛門
 - 後藤十郎兵衛
 - 坂本八左衛門
 - 田宮久右衛門
 - 小山伊左衛門
 - 鶴飼十郎右衛門
 - 武野甚五兵衛

右之通被 仰付之

二丸支配
 忍田八左衛門
 高橋四郎左衛門
 野村作右衛門
 山田宇右衛門
 中村又兵衛

右五人二丸御門番被 仰付候

右式人西丸御留守居支配被 仰付之

上使松前八左衛門
 松平阿波守

九日

- 御鷹之 尾張中將殿
- 御鷹之 森内記
- 御鷹之 松平謙岐守

右御国許^江以宿継被遣之

十日

松平出雲守 右は尾張中將殿御国元^江御鷹之露被遣候^二付登 城為 御礼也

十一日 營中別条無之

一 昨九日明^ケ前^二本所三ツ目之橋末之御右筆上原宇右衛門^江何者哉覽兩人参り宇右衛門を殺立退則兩人も手^ツ負道筋^二も血を引在之新敷切疵有之もの相改可申出之隱置後日相知候はば主人為越度へく候以上

一 昨日九日之夜明前本庄三之橋末御右筆上原宇右衛門所へ何ものやらん兩人参り宇右衛門を切殺立退候則兩人^二も手を負せ道筋^二ものりを引候て有之候新敷切疵有之もの相改可申出候かくし置後日^三相知候はば主人可為越度候以上

十二日 式日寄合土屋但馬守出座也

御座之間 尾張中納言殿

右病後初^而 御目見御熨斗蛇被遣之終^而 御目見 甲府中將殿 右御袖被為留^二付御取次^二松平撰津守 出雲守 御目見 是^ハ尾張殿 御目見^二付^而也 御黒書院^江 出御湯治帰御礼次^二婚禮相済^二付御礼有之 金式枚 家督之 御礼 戸田石見守

之上同類も可有之様^ニ聞^レ候間有様^ニ可申上之旨被^レ仰渡候^ハ共右之外可申上之旨子細無御座候由申候^ニ付^テ町奉行^江被^レ召寄候

於町奉行所御吟味之覚

一 町奉行^江七右衛門被^レ召寄御尋被^レ成候処最前伊奈半十郎殿

申上候通返答仕候付此方^ハ慥成證據有之候間有様^ニ

不申候はば拷問可申付旨拷問道具出し候^レ七右衛門白状

及候盜^ニ集り候^ニ宇右衛門^ニ被^レ見付逃様無御座追懸^ケ頭

を御切候^ニ付逃延候^ニも無詮事立帰^リ切結申候^ニ宇右衛門

殿^ニ切候得は御倒候其内^ニ退申候同類は無之候^ニ如何

様拷問被^レ仰付候^ニも申上間敷旨申候間同類今日迄知不

申候定^ニ拷問可被^レ仰付由也

十二月
御鷹之鶴宿次被下之
松平陸奥守
松平新太郎

御鷹之雁式ツ

松平左京大夫
松平摂津守
松平出雲守
松平刑部太輔
松平播磨守
松平出羽守
伊達遠江守
宗 對馬守

廿日
上野 御名代稻葉美濃守

三州濃山
青龍院
遠州鷺津
本興寺
古筆見
了栄
八兵衛

廿一日

已上刻御白書院 出御 院使 御對顔

法皇 女院新御殿へ御移徒^ニ付
御太刀 土岐伊守
御刀 米津周防守
法皇

（白絹十疋
黄金老杖

女院

（御小袖六
二荷三種

右之通被進之

今日兩院使登 城之時大手御門之内乗物下之

（銀馬代
紗綾三卷
同 斷 自分御札

内藤若狭守へ被替下之領知之御書出被下之

今夕舞被 仰付

信田

幸若八郎九郎
同 与右衛門

幸若八郎九郎
同 与右衛門

同 權八郎

（銀三十枚
時ふく三
時ふく三

廿二日

式日寄合久世大和守出座也

御樽肴 鶴
上使大沢右京大夫

兩院 使

右明日金銀之御振舞可被下之由也

御座之間

昨日舞被 仰付候 信田 幸若八郎九郎

同 与右衛門

右畢 御暇

銀三十枚
八郎九郎

与右衛門

權 八

松平三河守
松平但馬守
松平大和守

上秋彈正大弼

松平紀伊守

松平兵部太輔へ

宿次を以御鷹之露被下之

廿三日

已后刻於御白書院

御刀 酒井老岐守

法皇様御使

女院様之御使^江

右御饗應終^ニ出御 院答被 仰出之則御暇也

東久世三位

梅園三位

廿四日

増上寺 御仏殿為 御名代久世大和守

一 碁将碁被 仰付候

五目勝 本 因 坊

先 知 哲

先 門 入

十三日勝 因 碩

式番之内

初勝 角行番 宗 桂

後勝 宗 与

一 午刻御黒書院 出御碁将碁 上覽即刻 入御也

一 道策碁所被 仰付本因坊と申候右本因坊事、道悦と

申候

兩院使兩山參詣 東叡山 御宮

吉良上野介 上秋伊勢守

二王門 永井信濃守

御宮 太田摂津守

車坂 秋元摂津守

御仏殿 織田主計頭

二天門 青山大膳亮

屏風坂 同人出人

御番所無之松平山城守

増上寺

御仏殿 大沢右京大夫

畠山下総守

山門 阿部美作守

柳營日次記

延宝五丁巳年

閏十二月

朔日

例月之通御礼有之

(金十枚 繼目之御礼
銀百把 家督之御礼)

(金五枚 時服三)

女院より為歳暮之御祝儀御使

御小袖一重
御献上之
御鷹之鷹

右於 御前拝領之

於 殿中御鷹之鷹拝領之面々

白輪子廿卷
二種一荷
銀馬代
時ふく三
松平處摩守使者
入来院隼人
同 人
加藤権左衛門
諏訪部文九郎
八幡
岡伽井坊使者

山内大膳
五嶋主税

市川長右衛門
堀田備中守
土井能登守

小笠原山城守六

石川主殿頭二

青山大膳亮五

土井周防守三

板倉隱岐守四

酒井日向守八

太田撰津守九

阿部美作守一

内藤和泉守十

三浦志摩守十四

秋元撰津守十二

阿部伊豫守十三

板倉石見守七

松平山城守十一

加藤権左衛門

諏訪部文九郎

山内右近大夫

五嶋淡路守

右隠居二付
拝領之鷹捉之
鶴被殿之

二日

右鷹場 昨日御暇被遣明日發足之由也

三日

於 殿中御鷹之鷹

永井信濃守
那須遠江守

時ふく三
時ふく四
御暇
御暇
紀實門使者
吉見甚右衛門
松平處摩守使者
入来院隼人

四日

式日寄合稻葉丹後守

右鷹場より使者佐久間八兵衛を以

五日

右鷹場為

上使稻葉出羽守を以被遣之旨被 仰付今日

發足

熱裏へ御書物被進之

一 丹府元亀

一 桿海

一 正百川学海

一 續百川学海

一 廣百川学海

一 三才図絵

尾張殿

尾張殿

尾張殿

尾張殿

尾張殿

尾張殿

尾張殿

御代官高室助右衛門老免子安右衛門二父御役被 仰付之

六日

右登 城是昨日尾張殿鷹場江 上使被遣御礼也

右尾張殿鷹場江之 上使帰国於 御座之間 御目見也

右尾張殿鷹場より 上使之御礼被差上之

右は願之通息助右衛門二跡役御代官被 仰付之

七日

午刻西丸 渡御 奥山里二面 柴田和泉守組米津周防守組

堀田對馬守組乘馬 上覽

殿中別条無之

去頃御屏風之絵被 仰付狩野永真へ銀五十枚被下之

夜二入舞被 仰付

八日

殿中別条無之

去頃御屏風之絵被 仰付狩野永真へ銀五十枚被下之

夜二入舞被 仰付

九日

昨夜於 御座之間舞被仰付候

昨日二出 笛卷

張良

右千代姫君様江被為附候是は山田太郎左衛門跡也

尾張殿使者 津金次郎四郎

右鷹場より拜領之鷹二面 捉之鷹鴨一羽ッ被差上之

(時服三 銀馬代) 安倍丹波守

右大坂より参府之処依病氣以使者献上之

十日

御旗本之諸士跡目被 仰付面々

五千石 帶刀甥養子 松平万之助 一

千八百石 右京子 駒井權之助 二

高千式百石内 九百石 大久保山城守組 真田善左衛門三

千五百石 犬之助取来三百俵以上 兵左衛門孫養子 千本犬之助 四

高千石内 七百石 又兵衛子 高林次郎兵衛五

式千石 荒川出羽守組 高林市郎左衛門

式千石 大久保山城守組 龜井傳七郎 六

高九百五十石内 七百五十石 又兵衛子 脇坂甚兵衛 七

七百石 平左衛門二男 根来五左衛門八

伊東主馬介 十一

朝倉万右衛門十二

金森庄藏 十三

富永又左衛門十四

内藤弥兵衛 十六

山角權兵衛 十七

同 新右衛門子 山高三右衛門 十九

飯河傳右衛門 十八

加藤九郎左衛門 二十

石川大郎助 廿一

藤川金七 廿二

太田平八郎 廿三

若林十郎兵衛 廿四

野間金右衛門 廿五

幾志介大夫 廿六

多田新左衛門 廿七

大久保甚之丞 廿八

長谷川九十郎 廿九

内崎長八郎 三十

大岡七左衛門 三十一

田沢次郎大夫 三十二

矢部伊大夫 三十三

高林次右衛門 三十四

天野助之丞 三十五

佐久間惣右衛門 三十六

小林善八郎 三十七

下坂權之助 三十八

佐野長五郎 三十九

千種甚太郎 四十四

都合三十九人外二御役者五人

都合四十四人也

幸 五郎左衛門 三十九

春藤太郎右衛門 四十

長命清右衛門 四十一

黒川權次郎 四十三

梅若善九郎 四十二

溝口佐左衛門

岩本小兵衛

津田七右衛門

平野猪兵衛

御代官

御暇

同断

十一日

歳暮之呉服老万石以上之諸大名より使者を以被差上之

三州大樹寺御修復下奉行相勤ニ付

時ふく式折折

同断

御暇

同断

都合四十四人也

幸 五郎左衛門 三十九

春藤太郎右衛門 四十

長命清右衛門 四十一

黒川權次郎 四十三

梅若善九郎 四十二

溝口佐左衛門

岩本小兵衛

津田七右衛門

平野猪兵衛

御代官

御暇

同断

四百俵

板倉正福

松平三郎兵衛八

美子
同 小大夫

門奈助左衛門

秋山六左衛門

市川長右衛門

時ふく式ッ

府中御馬買場

銀五枚

御暇

女院御使

十三日

例年之通御煤拂也 酒井河内守勤之

昨日三出
府中御馬
買場

秋山六左衛門

門奈助左衛門

十四日

右願之通御役御免
水野弥兵衛

右願之通御役御免

節分御祝儀 河井河内守勤之

十五日

例月之通御礼在之

斷二 鷹場掃
御目見

右被差上之

尾 張 殿

藤堂和泉守

右姪之差合石川日向守女死
縁組被 仰付面々

松平右衛門佐娘

黒田甲斐守 江

上秋伊勢守娘

織田平十郎 江

戸田能登守娘

久留嶋帯刀 江

土井周防守娘

織田源七郎 江

伊東信濃守娘

齋藤宮内

大久保豊前守娘

同 三大夫

伊東信濃守娘

遠山和泉守

大久保兵九郎娘

遠山半右衛門

遠山和泉守娘

大久保甚四郎

安部丹波守娘

小濱孫三郎

駒井次郎左衛門娘

阿部四郎兵衛

酒井佐衛門尉

稲葉丹後守

加々爪甲斐守

内藤出雲守

福原内記

芦野民部

大樹寺

伊達大膳

同 人

前田安藝守

馬場三郎左衛門

二 諦 坊

古郡文右衛門

雨宮勘兵衛

本 因 坊

宗 看

算 智

算 哲

智 哲

春 智

因 碩

道 悦

宗 桂

銀十枚ッ

時ふく一 御暇

宗 与

十六日

屋敷被下面々

御小姓組

四拾人

御書院番

四拾人

新御番

十七人

御納戸衆

三人

小十人組

廿五人

大御番

三十人

右之通屋敷被下旨殿中江被為 召之被 仰渡之

一松平陸奥守使者伊達大膳御暇時ふく二被下之

十七日

辰后刻紅葉山 御宮 御参詣即刻 還御也

久留嶋左兵衛

右日光御目付被 仰付候

増上寺方丈

右殿中江招之三州松應寺之後住一藤益天被 仰付候

酒井修理大夫

堀田豊前守

右閉門御赦免

御先立 美濃守

陪拜 尾 黄 門

水 少 将

御刀 内藤上野介

御香 神尾彌守

三州松應寺後住

十八日

本間五郎左衛門へ御加増地之御書出被下之

豫参
美濃守
大和守
但馬守
加賀守

御供
土井能登守
堀田備中守
松平因幡守
内藤若狭守

増上寺一願
益天

十九日

酒井修理大夫
同 靱負佐
同 右京
堀田豊前守

右○兩人一昨日閉門御免今日登城也

廿日

辰后刻紅葉山 御仏殿 御参詣即刻 還御

陪拜
尾黄門
水少将

御先立
酒井河内守
奉迎
日門
御刀
土岐伊与守
御香
瀧川相模守

豫参
雅楽頭
美濃守
大和守
但馬守
加賀守

供奉
土井能登守
堀田備中守

廿一日

巳后刻 御黒書院 出御官位被 仰付之

御大刀備前兼長代金六枚
御表百把

松平因幡守
内藤若狭守

黒田宮内少輔

箱肴 参府

阿部對馬守
安藤對馬守
増山兵部少輔
松平備前守
堀 飛騨守
土屋相模守
太田原隼人
松平万之助
中嶋与五郎
亀井傳七郎

金三枚 繼目
箱肴 参上
金式枚 繼目

廿二日 式日寄合土屋但馬守出座也

御書院番
田村助大夫
御小姓組

右兩人二丸御留守居被 仰付之
高崎甚右衛門

五川重頼
小普請組

右老衰_二付隠居被 仰付跡式俣源左衛門_江被下之
加藤九郎左衛門事父伊織跡役御鷹匠頭被 仰付之

廿三日

右從弟忌是本多豊前守母死去

土屋但馬守

時ふく一 御暇

八幡豊藏坊 使僧

知恩院御門跡へ吉良上野介を以御伽羅一木箱纏二十卷被造之是久敷御使不被造_二付_三也

廿四日

辰后刻紅葉山 御参詣即刻 還御

御刀
御香
御先立
御供
酒井老岐守
堀山城守
酒井河内守

陪拜
尾黄門
水少将

豫参
雅楽頭
美濃守
大和守
加賀守

御供
土井能登守
堀田備中守
石川美作守
内藤若狭守

増上寺方丈傳通院登城御茶
御菓子方丈献之傳通院御菓子献之
日門へ 上使織田主計頭御菓子 被造之近々御登山_二付_三也

廿五日

御加増被下之
秋田平大夫
本多数馬

合八百石_二付_三
百俵

野々山源之助
久津見又助

右三人は都合四百俵_{ツツ}被下之

式百俵
同断
合五百石也
同断
合四百石
同断
合五百石
武田越前守組頭
川田吉兵衛
同人与頭
青山虎之助
酒井伊豫守組頭
西尾藤四郎
同人組頭
長田喜左衛門

（新規御切米
百五十俵被下之
御加増
百俵）

御代旨
五左衛門子
成瀬八左衛門三
阿部忠右衛門組頭
大草弥三郎 二
秋山源左衛門組頭
佐々甚五兵衛 一

瀧川相模守 四

須田市兵衛 六

山田甲斐守 五

仙石丹波守 五

河合平大夫 七

天野傳四郎 八

神尾飛騨守

小出下野守

大久保兵九郎

松平傳左衛門

大久保一郎右衛門

牧 七左衛門

右式人は都合五百俵 被下之

金三枚
時ふく我ッ

金三枚ッ

廿八日

例月之通御礼有之

尾張殿御家来大道寺玄蕃石河伊賀守事御願之通諸大夫被
仰付之

時服三ッ 大森信濃守酒井老岐守内藤上野介米津周防

守 同二ッ 小小姓衆御小納戸衆不残被下之 金七兩ッ

奥坊主衆不残外式兩ッ御業部屋坊主六人同五兩ッ

表日記書写坊主同二兩ッ四人 江

箱者 参府 松平和泉守

箱者 参府 西郷若狭守

箱者 参府 榊原越中守

箱者 参府 南部信濃守

箱者 参府 齋藤玄蕃

箱者 参府 入江三河守

箱者 参府 今村傳三郎

箱者 参府 河田六郎左衛門

右移徒之御礼

三東二卷
増上寺

歳暮御祝儀御一門方登 城謁老

三州
松應寺

山王
神主

遠寄師
昌陸

遠寄師
昌順

遠寄師
昌倫

遠寄師
昌純

遠寄師
銀座

遠寄師
圓阿弥

遠寄師
林阿弥越前

遠寄師
平岡次郎右衛門

遠寄師
後藤庄三郎

遠寄師
吳服師

遠寄師
幸阿弥

遠寄師
伊阿弥

遠寄師
齋藤玄蕃

廿九日

諸大夫名改ル

欠

熊之介
榊原式部少輔

作左衛門
本多飛騨守

大学
永井伊賀守

其後
山内大膳亮

主税
五嶋飛騨守

三之助
桑山美濃守

長次郎
山口修理亮

万之助
本多能登守

主膳
中川因幡守

民部
永井日向守

兵部
秋月山城守

藤十郎
嶋田越中守

宮内
鳥居長門守

時ふく我ッ 御暇

進物

進物

進物

東本

東卷

御紙

參上

離目

進物

進物